

平成 27 年度 政策評価シート

基本構想	交通環境と防災対策の向上
まちづくりの方向性	<p>便利でコンパクトな町という特性を活かして、町民にとって身近で利用しやすい公共施設の充実と、駅前広場や主要な道路の改良、公共交通の確保等により、交通環境の充実を図ります。</p> <p>また、喫緊の課題である大震災等の災害に備えるとともに、家庭、地域で町民同士の協力と支え合いによる減災文化が根付くまちづくりを進めます。</p>

取組状況

	重点的方針	内容	実績の推移			備考
			H25	H26	H27	
1	高齢者等の安心な暮らし支援	<p>暫定整備を行ったJR二宮駅北口駅前広場を、町民や通勤通学者、来町者にとっての玄関口に相応しい駅前広場となるよう本格整備に向けて検証し、検討を行っていきます。</p> <p>二宮駅周辺地区について、商店街利用者、通勤通学者、来町者の誰もが安心して安全に利用できるように、周辺の商店や地権者の協力を得てバリアフリー化を検討します。</p>	A	A	/	
2	コンパクトな町に相応しい「みんなの交通環境」整備	<p>町の特徴を活かして、「子育て・子育ての町」として、安心して子どもを産み育てることのできるまちづくりをさらに進めていきます。</p> <p>子どもたちの生きる力を育むために、学ぶ力の育成と体力の向上に取り組みます。</p> <p>福祉、教育部門だけでなく、行政の様々な部門が連携して総合的な取組を行います。</p>	B	B	/	
3	「安全・減災都市二宮」づくり	<p>大規模地震を含めて大規模災害は、いつどこで発生するかわからないことから、町民と協力・連携した自助、共助、公助によるまちづくりを推進します。</p> <p>その際に、木造住宅の耐震化や「我が家の防災対策」等により、自分の生命と財産は自分で守る自助の力を高めるとともに、地域ごとの防災計画づくりや防災訓練などにより、地域コミュニティの防災力を高めることによって、「減災文化が根付く町」として、安全・安心のまちづくりを推進します。</p> <p>二宮町地域防災計画に基づいて危機管理機能を強化するとともに、町民に普及するなどの取組を推進します。</p>	B	B	/	

町民満足度調査の結果 重要度 100 重要 75 やや重要 50 どちらとも言えない 25 あまり重要でない 0 重要でない
 満足度 100 満足 75 やや満足 50 どちらとも言えない 25 やや不満 0 不満

	設問内容	重要度		満足度		重要度と満足度の差
		前回調査	H27	前回調査	H27	
	「二宮の顔」づくり＝駅北口の整備		81.8		43.3	38.5
1	中心市街地等の整備・誘導		81.8		43.3	38.5
	高齢者等の安心な暮らし支援		81.3		45.6	35.6
1	道路の整備と管理		82.3		45.5	36.8
2	地域交通の充実		80.3		45.8	34.5
	「安全・減災都市二宮」づくり		80.1		55.6	24.5
1	消防・救急活動の充実強化		86.3		63.3	23.0
2	交通安全・防犯の充実強化		85.0		59.3	25.8
3	消費生活		70.3		52.3	18.0
4	地域の安全力の向上		77.8		59.5	18.3
5	自助活動の推進		79.0		53.0	26.0
6	共助活動の推進		77.0		53.5	23.5
7	公助活動と危機管理体制の強化		85.5		48.3	37.3

<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>		B
総合評価	説明	<p>基本構想「交通環境と防災対策の向上」における3つの施策「二宮の顔」づくり＝駅北口の整備」「コンパクトな町に相応しい「みんなの交通環境」整備」「安全・減災都市二宮」づくり」について、町民が重要と考える割合と満足度の差に着目すると、「二宮の顔」づくり＝駅北口の整備」「コンパクトな町に相応しい「みんなの交通環境」整備」の2つの施策について、重要度と満足度の差が特に大きい。また、個別事業では、中心市街地の整備・誘導、道路の整備と管理、地域交通の充実、公助活動と危機管理体制の強化について、重要度と満足度の差が大きく、さらなる取り組みが求められる。</p> <p>今後、町民の意見を反映しながら、まちづくりと交通環境の整備を一体とした事業展開が必要である。</p> <p>また、安全・安心まちづくりを推進するために、日頃から地域ネットワークづくりに取り組み、地域の防災力強化を図るとともに、地域と連携して、公助としての町の危機管理体制の強化を図る必要がある。</p>

外部評価[まちづくり評価委員会]		
<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>		A
意見等	<p>交通環境と防災対策の向上について、政策の方向性は間違っておらず、施策を引き続き進める必要がある。</p> <p>北口駅前について、広場が広がったが、暫定整備による限界もあるので、駅前町民会館のあり方を含め、検討を進める必要がある。駅から降車する外国人を含む観光客をスムーズに移動させるためには、町全体のわかりやすさを示すことが必要であり、ユニバーサルデザインが重要となる。</p> <p>交通環境においては、百合が丘や富士見が丘など坂道が多い地区では公共交通を確保する必要があり、福祉対策として割り切って企業や民間とも連携した施策を講じるなど、地区限定で新しい交通施策を打ち出すことも有効だと考える。</p> <p>また、外出しやすい環境づくりは、介護予防の視点からも必要であり、その一つが買物で、自分で選び買うことが予防につながる。自分自身で出かけることで、交流も生まれるため、外出しやすい環境づくりが必要と考える。</p> <p>防災対策の向上においては、町内において山側、海側で危険想定や度合いが変化するため、町の地域性にあった地域ごとの防災計画が重要であり、取り組んできた計画の実効性の有無を再確認するシステムが必要と考える。また、住民自身の防災に対する意識向上のため、各自治会における取り組みと、自治会同士の連携に対する支援が重要と考える。</p> <p>観光や買い物など外出しやすい環境を整え、駅周辺を含めた交流拠点を活性化し、住民同士の情報の交流を促進することが、交通環境と防災対策の向上に繋がると考える。</p>	

町の最終方針[庁内評価委員会]

方向性

基本構想「交通環境と防災対策の向上」については、外部評価において一定の評価を得たものの、町民満足度調査において、重要度と満足度の差が大きいため、これまでの取組みをベースに、さらなる施策の展開を図る。

政策の実現にあたり、交通環境の充実については、町民をはじめとした多様な主体のニーズや、地域ごとの実情を考慮した上で、誰もが移動手段を確保できるような交通施策の検討を進めるとともに、町の玄関口であるJR二宮駅を中心とした周辺地域を、誰にとっても利用しやすいユニバーサルデザインを意識した整備を行うことで、安全で快適な空間の確保を進める。

また、地域コミュニティにおける繋がりや絆を深めることで、地域ごとの防災力の強化、さらには、町民一人ひとりの防災意識の向上に繋げ、町民同士の協力と支え合いにより、誰もが安全で安心して快適に暮らすことができるよう、減災文化が根付くまちづくりを進める。